

## 平成30年度 部局長マネジメント方針

上下水道局経営企画室長 やまだ 山田 てるみ 照美



### 仕事に対する基本姿勢

全国と同様、本市においても人口が昭和50年の52万人をピークに、その後は減少傾向が続き平成52年には40万人を割り込むと予想されています。人口の減少や節水意識の向上による水需要の減少が進む中、上下水道事業の収益の根幹である水道料金・下水道使用料においても減収が今後も続くものと予測され、財政的に益々厳しい環境となっています。

将来の安定的な事業運営には、老朽化した施設の計画的な更新や大震災に備えた耐震化、また、増加傾向にある集中豪雨に対する雨水整備などが喫緊の課題であり、事業運営は大変厳しさを増すばかりであります。

このような状況でも水道事業・下水道事業の経営の見える化を推進し、必要となる多額の更新費用等の平準化と財源確保を図ることで持続可能な事業運営に努め、何をしなければいけないのかを把握して経営の効果を図るなど財政基盤を強化し、みなさまに信頼される事業運営を進めてまいります。

### 平成29年度の振り返り

上下水道庁舎整備事業につきましては、平成29年度の工事着手を目標にしていました。しかしながら、関係機関等との協議・調整が十分に行えていなかったことから庁舎建設工事の発注に至らず、現在は現計画の見直しの検討に着手しています。今後は、少しでも早期に着手・竣工することで上下水道サービスの効率的な提供と危機管理体制向上させてまいります。

また、水道事業を取り巻く厳しい状況を踏まえ、将来にわたってもサービスの提供を安定的に継続することが可能となるよう、平成29年度には水道事業における「経営戦略」を策定いたしました。

## 1 上下水道庁舎の早期建設を目指します

上下水道庁舎は上下水道サービスをお届けする拠点、上下水道に関係する業務を効率的に運営する拠点であります。また、同時に、大地震などの災害が発生したときには、応急給水や施設の復旧作業の本部となるなど、みなさまのライフラインを担う拠点であり大切な建物となります。

しかし、現在上下水道局は水道部門が若江西新町の水道庁舎、下水道部門が荒本の本庁舎に分散しています。水道庁舎は昭和48年に建設され、既に44年が経過し耐震性が低く、老朽化による劣化も著しい状況にあり、来庁者や職員の安全の確保に問題があり一日も早い竣工が望まれます。みなさまの安心安全のために早期建設を目指します。

## 2 中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を活用します

本市の水道事業は昭和7年に給水を開始し、また下水道事業も昭和24年に事業着手しております。両事業とも保有する施設が老朽化するとともに、耐震性の低い施設も多くあり、このことから施設の更新や震災等から守るための整備が必要とされています。また、本市の地形は平坦地が多いことから、水道の給水や下水の排水にポンプ施設が必要となり、動力費もかかり、比較的成本が高くなる条件にあります。

その上、人口の減少傾向は顕著であり、景気動向も上昇傾向にあるものの慎重な見方が続いており、節水意識の浸透も相まって料金収入は減少の一途をたどり、経営環境は厳しい状況であります。

このような下でも、上下水道局はみなさまの日常生活に欠くことのできないサービスを提供する役割を担っており、将来にわたってもサービスの提供を安定的に継続することが求められています。

人口減少局面において、上下水道サービスのレベルを維持し向上させるためには、事業収入の大部分を占める料金収入等を的確に把握し、戦略的な経営計画の下で、効率的、効果的に事業を進めることが重要となります。

市民生活を支える重要な役割を担う上下水道が、将来にわたって健全なサービスを維持できるよう「投資計画」及び「財源計画」を予測し「収支のギャップ」が生じないように、経営の健全化や料金水準の適正化等、複合的に検討し実現可能な方策で「収支均衡」を図れるよう「経営戦略」を活用し、計画的かつ合理的な経営を行ってまいります。